

第9回高専技術教育研究発表会 in 舞鶴 参加報告書

1. 目的

高専の技術職員が、日常業務で携わっている広範囲な技術や教育研究支援活動並びに研究活動等について、発表・意見交換を通じて技術職員の資質向上と技術教育の充実を目的とする。

2. 開催期間

平成30年3月12日(月)13時～3月13日(火)12時

3. 主催

舞鶴工業高等専門学校 教育研究支援センター

4. 発表分野

技術教育についての口頭発表及びポスター発表

- ・技術的教育研究支援に関わる発表(実験・実習, 安全衛生, 学生指導に関わる技術発表)
- ・科学研究等補助金採択による研究発表
- ・公開講座, 出前授業など地域貢献に関わる発表
- ・技術職員セミナーなど技術職員の啓発に関わる発表

5. 発表者・題目

中川秀則「手巻きウインチ設計製作教育の学習効果と現状」(口頭)

中川秀則「設計製作における失敗体験と教育効果の現状」(ポスター)

桶田真司「Solidworksを用いた梁の最適化設計と3Dプリンタによる製作実習」(ポスター)

6. 所感

今回は参加人数が過去最大、また理事長が初めてお見えになっており盛況だった。口頭発表では理事長からアドバイスをいただいたので今後の研究に活用していきたい。ポスターも常に人がいる状況で興味をもってもらえて良かったのではないかと思う。他の方の発表では、レーザーマーキングによる魔鏡などは、すぐに沼津でも出来そうで参考になった。また金沢の教育の効果の検討などは手法として非常に参考になった。豊田高専の色覚異常に配慮する話はぜひすべての技術職員に知ってもらえると良いと感じた。収穫の多い発表会であった。来年は木更津で第10回ということでぜひ多くの方に参加いただきたいとのことでした。

中川 秀則

開催地が木更津から近畿地方の舞鶴に変更になり、西日本の技術職員も多く参加する発表会でした。この度は、初めてポスターセッションにて発表を行いました。他高専で3DCADの実習を担当している技術職員の方々と意見交換を行うことができ有意義でした。他の方の発表では、石川高専のレーザーマーキングによる魔鏡作成と工作教室の実施結果報告について、手法が興味深い内容であるとともに、工作教室の大成功をきっかけに若手の技術職員が活発に新規の公開講座などを企画するようになった旨を聞き、すばらしいと感じました。

桶田 真司

